

第19回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和3年1月20日（水）18：00～20：30

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長（WEB参加）

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

川名 明彦 防衛医科大学校 教授（WEB参加）

坂木 晴世 国立病院機構西埼玉中央病院 専門看護師（WEB参加）

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長（WEB参加）

光武 耕太郎 埼玉医科大学国際医療センター 教授（WEB参加）

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

山野 均 県民生活部長（WEB参加）

森尾 博之 危機管理防災部長（WEB参加）

山崎 達也 福祉部長（WEB参加）

関本 建二 保健医療部長

星 永進 保健医療部 参事

本多 麻夫 保健医療部 参事

岸本 剛 衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価について

イ 緊急事態宣言から2週間経過した時点での緊急事態宣言措置の効果

- 高止まりしている状況。重症者は発生から遅れたタイミングで増加することからもう少し様子を見るべきではないか。（岡部委員、光武委員）
- 1回目の緊急事態宣言時の措置よりも限定的な対策である中で、できる範囲での努力を行っていることが数値に現れているのではないか。（岡部委員、川名委員）
- 2月7日に劇的に数値が下がっていることを期待することは難しい。更なる措置として、営業制限対象業種を拡大することも検討すべきではないか。（川名委員、光武委員、坂木委員、松田委員）
- 20時以降の人出は減っており、届けばしっかりと実施していただける県民性であると思う。特に若年層に対する強い具体的なメッセージが必要ではないか。（光武委員、坂木委員）
- 仮に緊急事態宣言が延長されるとした際に、現行措置をただ延長することは経済的にも厳しいのではないか。飲食店等についてテイクアウト等の業態変更を促しつつ、制限を行う業種の拡大を検討すべき。（川名委員、光武委員、坂木委員）

【県の対応】

- 委員の主な意見を1月22日開催の第40回新型コロナウイルス対策本部会議において報告を行った。

ウ 今後の感染動向の見込みについて

- 昨年1月と同様の状況に戻ることは難しい。9月や10月時の状況を継続することができれば理想的ではないか。（岡部委員）
- 感染を徹底的に抑え込むというよりは、重症者の受入れ施設の確保が必要である。（岡部委員）
- 高齢者施設のクラスターを防ぎ、精神科、透析患者の受け入れをしっかりと受け入れられる体制を構築すべき。（岡部委員）

- 緊急事態宣言の解除後はイベントの多い春ということを考慮すると、今のうちにできることを準備しておくことが必要である。（坂木委員）

エ ワクチンについて

- 副反応について、痛みや倦怠感、発熱は多いが危険なものではないことをあらかじめ周知することが重要である。（岡部委員）
- 医療従事者から優先接種が開始されるため、医療従事者から情報を収集し、県民にフィードバックしていくことが必要である。（岡部委員、川名委員）
- 副反応が出て困った際に相談できる体制を構築していく必要がある。（岡部委員、川名委員、光武委員）